

Ⅱ. 中区「陶の里」フィールドミュージアム



①陶の里フィールドミュージアム

中区の東南部は、多数のため池や農地が今も残っており、丘陵地の自然地形は、大切に保存されています。この丘陵地に5世紀前半から8世紀後半にかけて、今までとは違う製陶技術で作られた「須恵器」の一大生産地が形成されました。この中区を舞台に日本を代表する須恵器の生産、集積、出荷が大規模に行われました。「古事記」、「日本書紀」にも登場する陶（すえ）の文化は、中区の原点の一つといえるべきものではないでしょうか。なぜ、古代技術者の渡来人たちは、この中区を選び、一大生産地の村づくりを始めたのでしょうか。

その歴史を物語る史跡などはほとんど残っていませんが、わがふるさと中区の成り立ちは、この陶文化から始まったといえます。現在は市街化が進んだ中区ですが、陶器千塚や陶荒田神社等の史跡がまほろばの陶の里を、かろうじて私たちに伝承しています。想像力を高めて、まほろばの陶の里をイメージしてみてください。大地が語る中区のルーツが見えてくるのではないのでしょうか。古代人の知恵をフィールドミュージアムとして少しでも継承したいものです。



西陶器小学校から眺める陶器地区。地形がよくわかり、中区のルーツを感じさせる



昭和30年代の西陶器小学校丘陵地に農地が広がる

②陶の里を捉える

古代人たちは、素焼の土器＝土師器（はじき）を使っていました。やがて堺では百舌鳥古墳群を取り巻くように土師郷（はじごう）という集落が形成されます。その後、窯とろくろ技術が伝わり、これらの新技術を持った大陸からの技術者集団が、土師郷の背後の丘陵地に窯と居を構えます。これが私たちが捉えようとしている中区の「陶の里」です。日本書紀では「芽渟県陶邑（ちぬのあがたすえむら）」と記載され、芽渟とは地名で「和泉」のこと、陶邑は須恵器の生産地を指します。その後、北村、上之村、見野山村、岩室村、福田村の5つで構成されるようになります。陶荒田神社を中心に北が北村、上にあるから上之と呼ばれ、北村が現在の陶器北になっています。



今でも田畑では陶器のかけらをみつけられることがある

③陶の里の成立要因

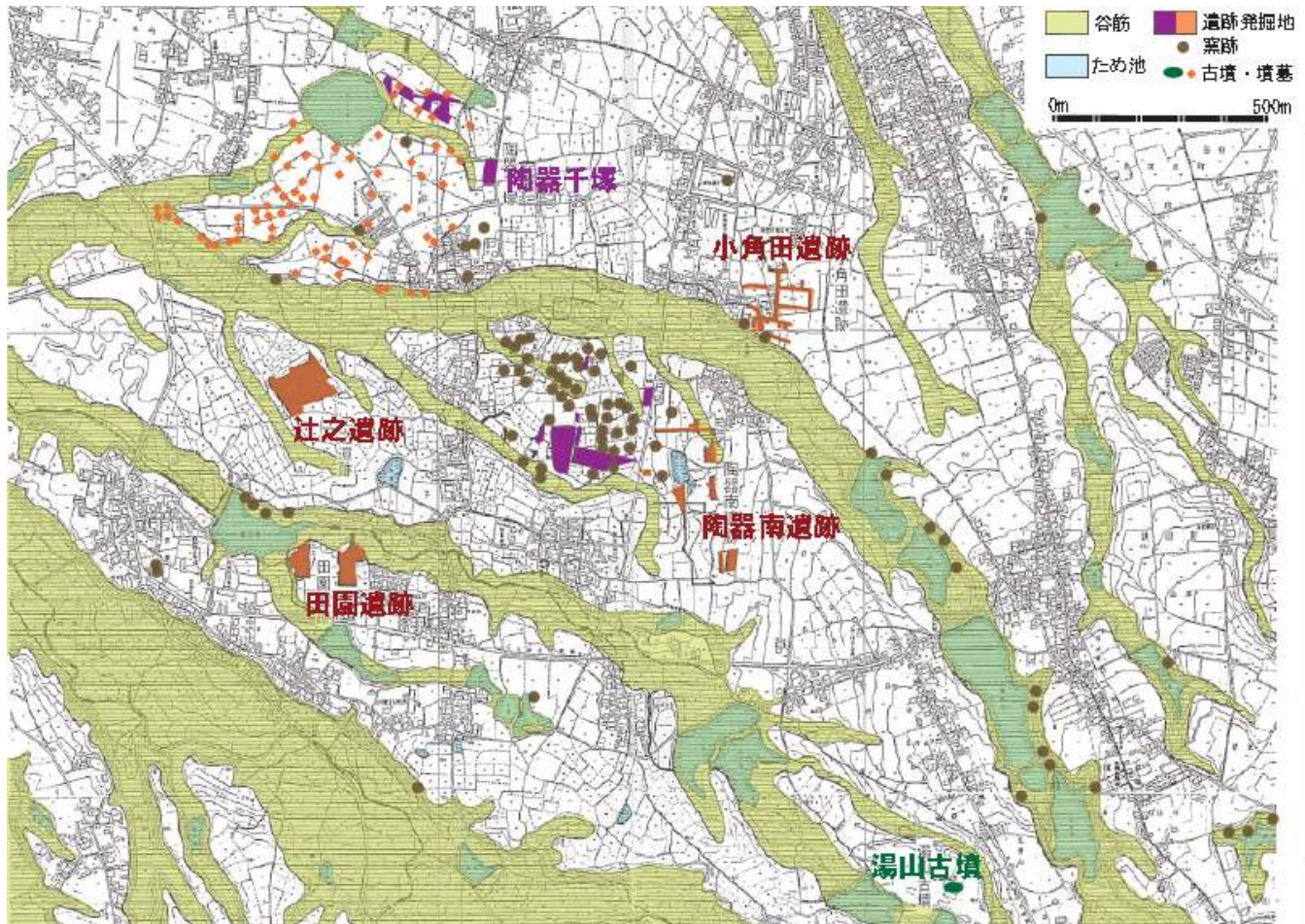
なぜ、須恵器の生産技術を持った渡来人たちは中区に居を構えたのでしょうか？理由は次の4つといわれています。

- ①地 勢—登り窯を備えるのに適した緩やかな斜面の丘陵地と水田が可能な沢の谷筋が近接した地形。
- ②土 壤—陶（須恵器）に適した陶土となる粘土となる地質
- ③里山林—燃料に適したアカマツが丘陵地に生育。アカマツはよく燃え煙が出にくい。中区から泉北の丘陵に広がる痩せた土壌が幸いし、アカマツの雑木林を育てたと言えます。
- ④立 地—大和朝廷の都に近く、土の造成に長けた同じ渡来人の技術者である土師氏の集落にも近接。



陶器を焼く窯

④陶の里の遺跡分布



◎須恵器と中区の地形

縄文時代、土器は焚き火で焼かれました。弥生時代を経て土器作りの技術は、古墳時代の土師器へ受け継がれますが、いくら薪を多くし長時間燃やしても、焚き火では須恵器のように硬く灰色の焼き物にはなりません。須恵器を焼くには窯が必要でした。それが登り窯です。登り窯は、斜面の地形を利用し、斜面の傾斜に沿って掘りくぼめ、細かい藁などを混ぜた粘土で天井を覆い、細長いトンネルを造ります。窯の長さは、斜面の勾配に沿って縦に約10m、幅は2m、内部の高さは、1.5mぐらいが標準とされています。

この登り窯を築くのに中区の丘陵は最適な地形でした。上図に示した帯のような谷袈の斜面に沿って登り窯が築かれ、集落跡の遺跡は、尾根の見晴らしの良い半島状に突き出た頂部に分布していることがわかります。尾根は原野でマツなどの薪炭林として利用すると同時に狩猟の場であり、谷筋では、稲作耕作がおこなわれました。そして斜面は、登り窯に、このように中区の小さな地形変化は、当時の陶の里にとって最も生活しやすい環境であったことがわかります。

◎陶邑古墳群跡

中区の陶の里は、日本最古の須恵器生産発祥の地として5世紀の初めに誕生し、約700年間にわたって続きます。同一地域でこれだけ長期にわたって焼かれた場所は他にはありません。泉北丘陵の窯跡群は、東西14km、南北15kmに及び、確認された窯跡数は500を数え、未発見や既に破壊されたものを加えれば優に1000を超えると推計されています。

⑤陶の里フィールドマップ



今も残る田園百塚のひとつ



現在の御坊山古墳



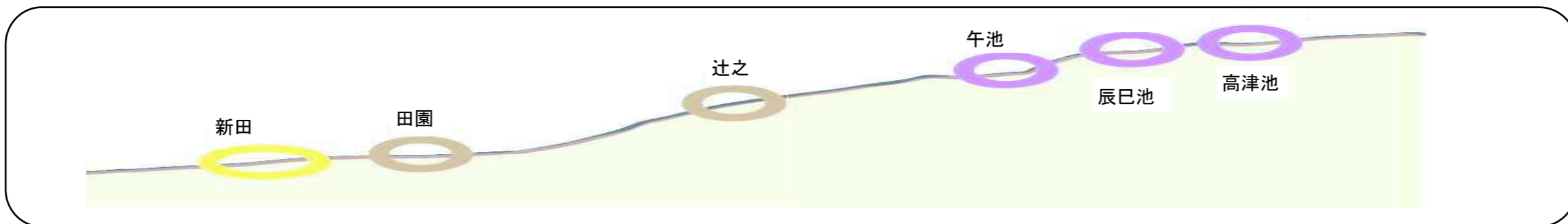
昭和30年代御坊山古墳周辺



西陶器小学校には出土した大量の須恵器が眠っている・・・



陶器地区には、現在も多くの工房がある



陶器地区から眺める泉北ニュータウン



陶荒田神社
須恵にまつわる神社



午池から眺める湯山古墳跡



湯山古墳から出土した石棺の復元（堺市博物館蔵）

すえむら

■知識を深めようー陶邑の成り立ち

古墳時代から奈良時代に至る当時の中区の様子を下図で確認してみましょう。弥生文化が伝わった当時、堺でも条里の水田※が海岸近くの低地につくられます。中区では、一番の低地である平井辺りが条里の水田に利用されました。その後、古墳造営に伴い百舌鳥古墳群の高台の丘陵地に土師郷が形成され、同時に条里の水田の開けた高台にも人が住むようになります。それが「蜂田郷」や「常凌(トノカ)郷」となります。

百舌鳥古墳群が形成された頃、陶の技術を持った人たちが、取り巻く高台の丘陵地に住み着き、わが国最古の須恵器の生産地を形成します。伊勢路川流域に住み着いた一族と、陶器川流域に住み着いた一族が「大村郷」の一部となる陶邑を形成していきます。

また、陶器に関わった人たちの墓である陶器千塚は、大村郷のほぼ中央、伊勢路川と陶器川流域の間の丘陵地に形成されています。

※条里の水田
古代律令期に整備された耕地整理の跡。約108m四方の基盤目状の地割や坪等の小字名で継承されている場合が多い。



⑦私たちの思い出 (メンバーコラム)ー中区の原風景

○須恵器の思い

泉北ニュータウンの開発時に、三原台、高倉台、晴美台、槇塚台に於いて釜跡や土器のかげらを拾ったこともあります。この一帯は赤松が多くあった事とマツタケが採れた事も記憶にあり、泉ヶ丘東中学校建設時に一帯で須恵器が出たこともありました。又、千塚が多く私自身キツネ山で友達と完璧な須恵器を掘ったこともあります。

私達の先祖は渡来人の工人か土着民か想像すると楽しいです。しかし親が百姓だったので工人及び作業人をささえる百姓であってほしいと思います。

開発が進む中、昔の姿を残す丘陵地形の自然があり、須恵器の破片があちこちの田や畑にまだ存在しています。今後、古墳・釜跡が陶の地でいつ発見されるか楽しみです。

◎ランドマークの陶荒田神社



陶荒田神社

須恵器発祥の地にある陶荒田神社は、別名「陶器大宮」などともいわれています。陶器川流域のほぼ中央の高台に位置し、今も流域のランドマークを形成しています。午池から見ればそれが非常によくわかります。すなわち陶器川流域は、最も高台の見野山に陶器の首領の墓（湯山古墳）を祀り、流域を見渡す中央の高台に陶荒田神社が配されています。陶器川の水源地には、高蔵寺を配し、聖なる杜として祀ることで、流域の水を保全し、薪炭林として利用されることなく水源涵養を果たしてきたということが出来ます。こうした水源地与流域の成す空間構成は、大村郷だけでなく、泉北丘陵一帯に及んでいます。

自然に畏怖しながら、土地を治めた古代人たちの神々への思いを今日にも伝えているのではないのでしょうか。

◎陶の里の流通経路



◇須恵器の流通経路

- ①窯から居住地に運び込む
- ②倉庫で保管
陶器川等を利用
- ③万崎等の港や河川港へ
- ④大きな河川や街道を利用し
全国へ出荷

中区の陶邑で生産を始めた須恵器は、泉北丘陵一帯で独占的に生産されたにもかかわらず、全国のお古墳や集落跡で陶器の製品が発見されています。徐々に生産地は、各地に広がり始めますが、古代から鎌倉時代に至るまで長期にわたって生産され続けたのは、中区の陶邑のみといわれています。

では、中区の陶邑で生産された須恵器は、どのような経路で、全国に運ばれたのでしょうか。

まずは、地勢を確認してみましょう。陶邑の登り窯は、谷筋の斜面を利用して形成され、谷筋の低地は、水田に利用し、登り窯を構えた丘陵地の頂部や尾根では、燃料の薪や狩猟の場として活用されています。中区の地勢が当時の徒歩圏に対応した生活スケールにぴったり合ったといえます。

焼かれた須恵器は、谷筋を流化する河川で海岸港まで運ばれ、かつての海岸であった万崎などの港に集められ、全国に発送されたと考えられます。

中区の陶器川・前田川流域では、焼きあがった須恵器を運び込み、良品と不良品に選別後、倉庫で保管し、河川や街道を利用して出荷するまでの集積・出荷センターとして機能したと考えられます。

○陶の里

「須恵器」の一大生産地であったとはつゆ知らず、毎日その景色を眺めていた小学生時代、友人が「勾玉、水晶を見つけた！」と、はしゃいでいるのを横で羨ましがっていました。「どこにあるんだろう？」って思っていたら、こんな身近なところにあったんですね。

○故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る
中区フィールドミュージアム！あの狭山池が、

菰池が、ニサンザイ古墳が、陶器が、土塔が、そして行基が、寺が、神社が・・・引き継がれ存続されてきたにもかかわらず、知られずに眠っていた過去からの歴史が思いもよらず明るみに出て私たちに迫ります。これまで平凡に見えていた風土や因習に、新たな血脈を感じるようになります。これからの私たちがこの地を守っていきたい、そんな郷土になることを願ってやみません。

○昔の遊び

自然の地形を活かし工夫をこらした遊びを考えていた子どもの頃を思い出しました。竹を使った鉄砲遊び（石、水、紙、木の実等）が今は懐かしい。機会があれば作ってみたい。

○見野山から海を臨もう

中区は、土師器、須恵器の時代から生活、産業において日本でも最先端の地域だった。江戸時代

の新田開発に伴うため池による灌漑によって、米、綿、野菜など組み合わせた二毛作地帯として比較的豊かな地域になったようだ。ただ、見ることの出来る史跡は少なく、どのようにすればそれを実感してもらえるの？ゆっくり高くなっていく丘陵地帯から海に続く斜面を見ているとなんとなくわかってもらえそうな気がするのですが・・・

Ⅲ. 中区の陶とため池関連年表

時代区分	陶とため池関連の事項など	出来事 (年代)	
弥生時代 前期 (二千年前)	四池遺跡—約20軒の密集した住居跡群 池上遺跡		弥生式土器、青銅器 高床式倉庫
後期	陶器村銅鐸出土	57 倭奴国王金印	銅鐸、銅剣
5世紀 (古墳時代)	百舌鳥古墳群（反正陵、いたすけ古墳、履中陵、 仁徳陵、ニサンザイ古墳等） 須恵器生産はじまる 陶邑成立—陶器千塚・見野山古墳・陶荒田神社の 三点結ぶ地	391 百済新羅を破る	古墳、埴輪 土師連 大陸文化伝来、 渡来人
6世紀	陶器千塚—三十三の小円墳の中に前方後円墳1基 (須恵器工人集団墓) 湯山古墳（見野山）—須恵器生産首領の墓	狭山池築造	
7世紀	かまど塚—窯形木心粘土槨（火葬）	593 聖徳太子摂政	
610頃	狭山池築堤	四天王寺建立	
奈良時代 668年	行基生まれる（大鳥郡蜂田郷）	672 壬申の乱	高松塚古墳壁画
710年	平城京	712 古事記	
727年	行基大野寺（土塔）建立	720 日本書紀	
743年	大仏建立詔発布	741 国分寺国分尼寺	
745年	行基大僧正となる		
749年	行基死去（菅原寺東南院）墓地：生駒竹林寺		正倉院
760頃	須恵器の生産衰退	759 唐招提寺建立	万葉集
757年	和泉国成立（河内から独立）		
平安時代 794年	平安京		遣唐使
806年	最澄天台宗を比叡山に開く	801 蝦夷討伐	熊野参詣
816年	空海高野山に金剛峯寺を建立し真言宗開く		荘園制
平安時代1090 頃	高野参詣盛んとなる（西高野街道の成立） 平安期の荘園—蜂田荘、深日荘、陶器荘	939 平将門の乱	かな文字
	鎌倉期の荘園—若松荘、和田荘、塩穴荘、大鳥荘 深井荘、土師保、上神荘	1051 前九年の役 1159 平治の乱 1192 鎌倉幕府	竹取物語、古今和歌集 守護・地頭 平家物語
室町時代	南北朝期の荘園—市荘、八田荘、日置荘	1221 承久の乱 1334 建武の新政	新補地頭 能・狂言、金閣寺
1595年	室町期の荘園—陶器保、 秀吉、小出秀政に堺周辺13000余石加増	1467 応仁の乱 1590 豊臣秀吉統一	雪舟、連歌、銀閣寺 茶道、千利休



昭和40年頃の狭山池。ボートが浮かぶ。

時代区分	陶とため池関連の事項など	出来事 (年代)	
江戸時代1604年	陶器藩（陣屋）の成立（小出三尹）1万石	1600 関ヶ原の戦い 1615 大坂夏の陣	
1646年	福田村成立（福島屋次郎兵衛）800石	1637 島原の乱	井原西鶴
1664年	土師新田（大阪商人新田仲間10人）114石	1663 武家諸法度	
1671年	東山（升屋）新田（梅川七左衛門、大和屋長右衛門）176石 土佐屋新田（土佐屋七左衛門）52石 伏尾新田（和泉屋五郎兵衛）46石		
1674年	畑山新田（帯屋喜右衛門）156石 榎葉向山新田（谷新左衛門）92石	1678 延宝検地	
1681年	土塔新田（深井村百姓）53石	1682 生類憐みの令	1684 堺鑑
1696年	陶器藩断絶（未嗣子のため）		
1702年	草尾新田（朝田喜兵衛、太田新蔵⇒六右衛門、吉右衛門）503石	1702 赤穂義士討入	
1704年	見野山新田（不明）49石	1704 大和川付替完了	
1705年	旗本小出有仍、陶器旧小出領を領地	1716 吉宗将軍となる	1729 天一坊事件
1823年	田園村の陣屋（小出氏）完成	1838 大塩平八郎の乱	1815 蘭学事始
1868年	堺事件（妙国寺で土佐藩士切腹）	1853 ペリー来航	
明治 1872年	西陶器小学校（郷学校）創立 東陶器小学校（和泉国第三区郷学校）創立 深井小学校（大鳥郡第四区郷学校）創立	1868 明治維新 1877 西南の役	
1873年	久世小学校（小坂尋常小学校）創立		
1874年	八田荘小学校（泉州第十八番小学校）創立		
1889年	堺市市制施行		1890 米騒動 1891 濃尾地震
1893年	東百舌鳥小学校（大鳥郡東百舌鳥尋常小学校）創立	1894 日清戦争勃発 1904 日露戦争勃発	
1945年	堺空襲（終戦⇒戦災都市指定）	1923 関東大震災	1953 町村合併促進法
1967年	泉北ニュータウン開発着工	1956 関東大震災	1956 日本国連加盟
1967年	宮園小学校が創立（府営八田荘団地建設）		1969 東名高速道開通
1979年	福田小学校が創立（東陶器小学校から分離）	1972 沖縄日本復帰	1970 大阪万国博開催
1981年	八田荘西小学校が創立（八田荘小から分離）		1973 第一次オイルショック
1982年	東深井小学校が創立（深井小学校から分離）	1981 ポートピア博	1982 東北新幹線開通
1985年	土師小学校が創立（東百舌鳥小学校から分離）	1990 統一ドイツ実現	1985 電電公社民営化
1986年	深井西小学校が創立（深井小学校から分離）	1994 関西空港開港	1987 日本国有鉄道民営化
1990年	深阪小学校が創立（西陶器小学校から分離）		1995 阪神淡路大震災
1992年	中支所が開所		
2006年	堺市政令指定都市移行に伴い、中区役所が開所		
(参考)	正保年代（1645-48）築堤のため池—清水池（福田） 享保年代（1716-35）築堤のため池—菰田上池、菰田下池、牛谷池 元文年代（1736-40）築堤のため池—小弥陀池（北村） 宝暦年代（1751-63）築堤のため池—さる池（上之） 明和年代（1764-71）築堤のため池—三つ割池		

【参考文献】

- ・角川日本地名大辞典 27大阪府 角川書店
- ・巨大古墳造営集団の動向—土師遺跡の検証から— 鹿野 吉則 著
- ・「古代日本」誕生の謎—大和朝廷から統一国家へ— 武光 誠 著
- ・堺市陶邑（東陶器村・西陶器村）の歴史 岡本 寅一 著
- ・堺市史統編 付図1 三浦 周行 監修 堺市史編纂室
- ・陶邑 大阪府教育委員会
- ・陶器南遺跡発掘調査概要 大阪府教育委員会
- ・堺市文化財調査概要報告書 堺市教育委員会
- ・土師遺跡とその周辺—古墳、集落、寺、氏族— 堺市教育委員会・堺市埋蔵文化センター
- ・西陶器校百年 堺市立西陶器小学校
- ・日本書紀（上） 山田 宗睦 訳
- ・にっぽんの旅 堺 昭文社
- ・日本やきもの史入門 矢部 良明 著
- ・むかしの堺 別所やそじ・尼見 清市 著
- ・歴史たんけんプリント堺 大阪歴史教育者協議会 堺支部
- ・和泉陶邑の研究 中村 浩 著
- ・研究入門 須恵器 中村 浩 著
- ・泉北丘陵に広がる須恵器窯・陶邑遺跡群 中村 浩 著
- ・歴史の中の狭山池 古川 秀之 著
- ・和泉国深井郷土誌 深井文化サークル 代表 外山 福三

※このガイドブックに記載されている内容は、既存文献資料に基づき考房メンバーがとりまとめたものです。諸説との相違等があるかとは思いますがご容赦ください。



中区ふれあい事業推進委員会
中区域まちづくり考房 歴史文化グループ
事務局：堺市 中区役所 自治推進課
〒599-8236
堺市中区深井沢町2470-7
電話 072-270-8154
FAX 072-270-8101
Email: nakajisui@city.sakai.lg.jp